



## アドビシステムズ社、LiveCycle Enterprise Suite 2 を発表

### モバイルアクセス、Flash ベースのワークスペース、クラウド対応により、 重要なビジネス顧客とのコミュニケーションに 最適なアプリケーションを提供

**【2009年11月5日】**

Adobe Systems Incorporated (NASDAQ: ADBE) (本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビシステムズ社) は、Adobe® LiveCycle® Enterprise Suite 2 (ES2) を発表しました。これにより、企業や政府関係機関はさまざまな方法で、顧客や市民とコミュニケーションをするアプリケーションを構築できるようになります。LiveCycle ES2 は、カスタマイズができる RIA (リッチインターネットアプリケーション) ワークスペースを構築する RIA フレームワーク、重要なアプリケーションへのモバイルやデスクトップ端末からのアクセスやクラウド展開などの機能を提供することにより、事業部門や IT 部門の生産性を大幅に改善します。さらに、ユーザー毎に設定された入力条件を自動化されたビジネスプロセスにつなげることが可能となるばかりでなく、リアルタイムコラボレーションのアプリケーションへの組み込みなどによって、ユーザーエクスペリエンスを改善するとともに社員の生産性を向上させます。

ドイツテレコム社のパーソナルサービステレコム担当最高情報責任者、ライネル ハーン (Rainer Hahn) 氏は「ドイツテレコムでは事業プロセスの自動化を進めており、まさにこれを実現する製品が Adobe LiveCycle ES2 です。今回の最新版により、顧客やパートナー、社員のアプリケーションの効率を大幅に改善したいと考えています。Adobe LiveCycle ES2 は柔軟で使いやすく、かつ複雑な事業プロセスも短時間で改善できるので、事業目標の達成を実現しやすくなりました」と述べています。

アドビシステムズ社のシニアバイスプレジデント兼ビジネスプロダクティビティビジネスユニットのゼネラルマネージャであるロブ ターコフ (Rob Tarkoff) は「Adobe LiveCycle ES2 を導入することで、ソーシャルメディアやモバイルアプリケーション、コンシューマー向けのアプリケーションなど、人々が普段の生活で慣れ親しんでいる形で、各自の仕事の進め方に合わせたソフトウェアソリューションを構築できます。これは、現在のような経済環境でビジネスを成功させる上で欠かすことができません。LiveCycle ES2 には、モデル駆動型アプリケーション開発、セルフサービス RIA フレームワーク、効率化重視のオーサリングなどの強力なツールや環境が数多く用意されているので、重要な情報の生成やキャプチャ、交換を効率的にできるアプリケーションを作成できます」と述べています。

エンタープライズアプリケーションについては、ユーザーは今まで、システム側の仕様にあわせたソフトウェアを使用していました。しかし、幅広く普及しているオープンな Flash® Platform と PDF との統合を進めた LiveCycle ES2 により、従来と大きく異なるユーザー中心のエンタープライズソフトウェアの開発が実現します。LiveCycle ES2 はアプリケーションの設計技術を一新することで、書き込むコード量が少ないだけでなく、データとサービスの統合が簡単にできるようになりました。このため Adobe Flex® と LiveCycle による開発効率が向上し、Adobe Flash® Builder™ 4 ベータ版用の LiveCycle ES2 プラグインも用意され

ていることから、Flex ベースのアプリケーションに LiveCycle ES2 の技術をシームレスに埋め込めるようになりました。また、既存あるいは新規の RIA においてリアルタイムに複数のユーザー間でのコラボレーションが簡単に構築できる拡張性の高いソリューション、Adobe LiveCycle Collaboration Service (旧 Adobe Flash Collaboration Service) もホストを介したサービスとして提供します。このような強力で柔軟なフレームワークを活用することで、ユーザー中心のアプリケーションの開発と展開を高速化できます。

新しい Adobe LiveCycle Mosaic ES2 は複合 RIA フレームワークです。アクティビティ中心の RIA アプリケーションを直感的でわかりやすく、かつ、パーソナライズした形ですばやく構築できます。すでにエンタープライズアプリケーションがある場合は、そのビジネスロジックとユーザーインターフェイスをアプリケーション「タイル」という形で露出させ、拡張します。このタイルとはコンテキストを認識するユーザーインターフェイスアプリケーションコンポーネントで、これを組み合わせることで、各ユーザーの使い方やニーズに最適な統合と表示ができます。これにより、Adobe AIR® (Adobe Integrated Runtime) デスクトップアプリケーション経由でサーバーにデータコンテキストを保存し、作業中の内容を失わずに、複数タスクの切り替えやワークスペースのセーブ後に戻ることも可能になります。

LiveCycle ES2 には豊富なオプションが用意されており、いろいろな種類の基幹業務プロセスに対応できます。Adobe LiveCycle Workspace ES2 Mobile では iPhone、Blackberry™、Windows™ Mobile からのアクセスが可能で、外出時にもタスク操作をすることができます。Adobe LiveCycle Launchpad ES2 では、LiveCycle ES サービスにデスクトップから簡単にアクセスできます。簡単なドラッグ&ドロップインターフェイスで PDF ファイルを作成するポリシーを追加してドキュメントプロセスの安全性の向上も可能になります。

アドビ システムズ社は、LiveCycle ES2 を完全に管理されたプロダクション インスタンスとしてクラウド環境への導入を可能にする計画も発表しました。製品アップグレードを含め、モニタリングからサポートのすべてを 1 日 24 時間、年中無休で管理します。あらかじめ構成した LiveCycle ES2 のインスタンスを Amazon Web Services クラウドコンピューティング環境にホスティングし、迅速な導入と TCO (総所有コスト) の削減を実現します。

さらに導入しやすくし、早期に入手できるように、アドビ システムズ社では、Adobe Solution Accelerators の拡充も進めています。Adobe Solution Accelerators は LiveCycle ES2 上で開発された製品で、プロジェクトの企画やプロトタイピングが迅速にできるように、開発期間を短縮します。既存の金融機関向けの Account Enrollment Solution Accelerator と Correspondence Management Solution Accelerator に加えて、政府関係機関向けの Benefits and Services Delivery Solution Accelerator、生命科学分野向けの Electronic Submissions Solution Accelerator、企業・政府関係機関向けの Human Capital Applications Solution Accelerator の提供を開始します。Adobe Solution Accelerators は成功事例による方法論とユーザーインターフェイス、プロセステンプレート、コードの構成単位などにより、LiveCycle ES2 を拡張できます。

#### **価格と提供予定**

Adobe LiveCycle ES2 は、2009 年中に発売予定です。また Adobe LiveCycle ES2 のクラウド対応オプションは 2010 年初頭に提供開始の予定です。LiveCycle ES2 に関する詳しい情報は、<http://www.adobe.com/jp/products/livecycle/> をご覧ください。

### **アドビ システムズ社について**

アドビ システムズ社は、時間や場所、利用するメディアや機器を問わず、あらゆるユーザーの、アイデアや情報との関わり方に変革をもたらしています。アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、Web サイトに掲載されています。